

学校教育目標	「夢に向かって かがやく子」 ○自ら問題を発見し、主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます。《知》 ○自分を大切に、他者を思いやって行動ができる優しさを育てます。《徳》 ○運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。《体》 ○夢や目標をもち、まちや社会のために、他者と協働する力を育てます。《公》 ○人とのつながりを大切に、広い視野でともに生きていく力を育てます。《開》				
	創立 47 周年	学校長 志波 亮	副校長 川原 祐司	2 学期制	一般学級：23 個別支援学級：6
学校概要	児童生徒数： 698 人 主な関係校： あざみ野中学校 あざみ野第二小学校 黒須田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あざみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜自分づくりに関する力＞ ＜言語能力＞ ＜心身ともにたくましく生きる力＞	あざみ野中学校 あざみ野第一小学校 あざみ野第二小学校 黒須田小学校 (すすき野中・嶺山 小・荏子田小)	自分らしく、共に生き、未来を切り拓く子 小中学校間で学習指導と生徒指導の内滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質能力を育て「9年間で育てる子ども像」の具現化を目指す。具体的には小中授業研究会、小学生の中学校授業参観・部活動見学・生徒会オリエンテーション等を行う。

中期取組目標	子ども一人一人を大切にして学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し自信をもって行動する子を育てます。 ○豊かな感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努めます。 ○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ○健康な心身を作るための生活習慣の形成と学校生活の約束を大切に作る気持ちを育てます。 ○家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし、社会に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努めます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①単元や一単位時間で働かせる見方・考え方や、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをしていく。 ②子どもが問いや問題意識をもち、主体的に学習に取り組むような授業・単元づくりを目指していく。 ③問題や課題に対して自分の考えをもち、子どもたちが協働的に話し合いながら納得解を見出していくような学習場面を取り入れることで、他者と豊かに学び合う素地を養い、重点研究のテーマの実現を目指していく。
担当	学習委員会	
徳	豊かな心	①豊かな心の育成を目指して、日常的な学校生活の中で道德教育の指導を充実していくとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の要として子どもの実態に基づいた道德科の授業改善を図っていく。 ②「ひと」「もの」「こと」とのつながりを大切にしたい体験的な活動を通して、自分の思いを表現したり、自他のよさを認め合ったりする中で、自己理解や他者理解を深めていけるようにする。
担当	児童委員会 道德部	
体	健やかな体	①体育科での指導や外遊び等、運動の楽しさを実感できる場を工夫し、体力の向上に努めていく。 ②子ども主体で計画された運動集会や運動週間を行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し日常的に運動に取り組む態度を養う。 ③体育科の学習等では、ICTを効果的に活用し、児童が自己を振り返ったり、教職員が評価に活かしたりして、授業への意欲向上や授業改善を図る。
担当	体育部	
公 開	地域連携	①あざみサポーターズと連携して、地域の材を活用し、学習の充実を図り、児童の学びが深まるようにする。 ②学校運営協議会、学校説明会、学校だより、学校HPなどを通して、学校経営方針や教育活動の様子を発信していくとともに、朝会等を通して地域の行事や見守ってくださる方々の紹介をし子どもの地域への所属感を高める。 ③学校地域コーディネーターと連携して、キャリア教育の一環として地域で体験的に学ぶ機会を設け、先の自分を思い描き、新たな視点をもてるようにする。
担当	安全環境委員会	
いじめへの対応		①毎月いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行い、全職員でいじめを根絶に向けて取り組んでいく。 ②たてわり活動や音楽集会など異学年交流の機会を積極的に設け、他者を理解し、認め合う心の育成を図る。 ③一人ひとりの思いや願いを受け止めるため、Y-Pアセスメントやアンケートを基に、学年に合わせた「子ども面談」を実施する。
担当	いじめ防止対策委員会	
児童指導		①あざみスタンダードの見直し、確認を全職員で行い共通理解することで、今の実態に合わせたスタンダードを作成し、児童指導に生かす。 ②不登校や教室に入れない児童に寄り添い、ICTや特別支援教室を利用しながら学びが継続できるようにする。 ③児童支援専任を中心に情報の共有化を図り、未然防止や迅速な初期対応を行う。
担当	児童委員会	
特別支援教育		①ユニバーサルデザインの視点に立った授業の工夫や特別支援研修を行い、児童が落ち着いて安心して学習できるように教室環境を整える。 ②配慮が必要な児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うための教育環境を整える。「あざみルーム」や「国際教室」にて、必要に応じて取り出し指導や学級に入り込みの指導を行う。また、担任、担当者、保護者間で情報共有を行う。 ③個別支援学級では、個別の支援計画・指導計画を保護者合意のもと作成し、個のニーズに合わせて児童が安心して学習できるように学習計画を立てる。また、より落ち着いて学習できるように机の配置を工夫し、環境調整を行う。
担当	児童委員会	
特別活動		①学級活動、児童会活動、委員会・クラブ、学校行事等の活動に児童が主体的に取り組む姿を目指す。そのために、各活動のリーダーを集めた会議を開き、活動内容の充実を児童にゆだねていく。 ②様々な集団活動を通して、活動の異議を理解し、同じ目標に向かって協働する態度を養う。 ③話し合い活動の充実を図るために、学年の実態に合わせて、学級会の実施を進める。
担当	特別活動部	
情報教育		①「情報教育で育む資質・能力 体系表」を基に、各教科等の授業においてICTを目的に応じて活用し、教育活動全体で育む資質・能力の育成を図る。 ②情報推進委員会を中心とした校内ICT推進体制を確立し、組織的な研修と実践共有を通して、児童・職員が安心してICTを活用できる環境を整備する。
担当	ICT情報推進委員会	
人材育成・組織運営 (働き方)		①5年次以下の教職員を中心に、ミドルリーダーも交えてメンターチームを組織し、授業力、指導力の向上を図る。 ②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有を図るとともに、自己の強みに応じた校務の分担やチーム学年経営を生かし、組織的な働き方改革につなげる。 ③様々な企画の提案資料を担当部署で事前に練り上げたり余裕をもって提示したりすることにより、会議の時間短縮と質の向上を目指す。
担当	教務部・メンターチーム	